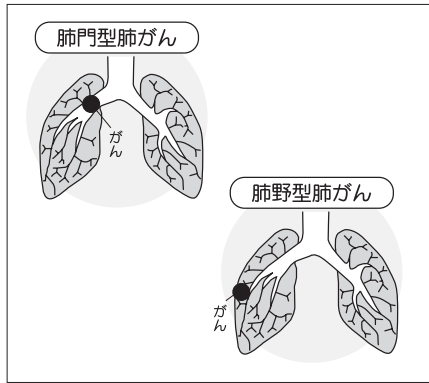


日本人に急増中！検診で肺がん予防を

文=齋藤 あゆみ(保健師)



日 本人の死亡原因第1位である「がん」。その数は年々増えつづけ、現在、日本人の約3人に1人はがんで亡くなっているといわれています。なかでも肺がんは増加の一途をたどっており、がんの部位別死亡率では男性で第1位、女性では第2位となっています。(グラフ参照)

肺がんは発生部位によって、肺の入り口付近の太い気管支にできる肺門型肺がん(はいもんがた)と肺の奥の末梢部分にできる肺野型肺がん(はいのちよう)の2つに分けられます。

肺がんはがん細胞の種類によっても分けられ、次のように分類されます。

- 扁平上皮がん(へんぺいじょうひ) (約20%)
 - 肺門部の太い気管支にできることが多く、圧倒的に喫煙男性に多い。
- 腺がん(せん) (約60%)
 - 日本で最も多い、肺野部のがん。非喫煙女性でもかかる。
- 大細胞がん(約15%)
 - 末梢部にでき、進行が速いがん。男性に多い。
- 小細胞がん(約5%)
 - 肺門部にでき、最も進行・転移が速く危険ながん。

()内は肺がんの発生に占める割合

肺門型肺がんは、咳や痰あるいは血痰などの症状が現れやすい特徴があります。一方、肺野型肺がんの多くは初期段階ではなかなか症状が現れませんが、比較的早い時期から胸部レントゲン写真に写るので、定期的な検診が必要です。

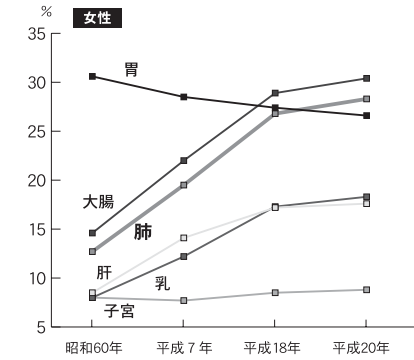
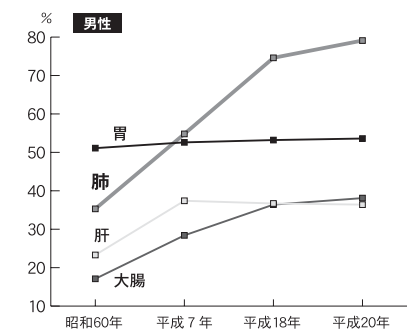
また、肺がんはがん細胞の種類によっても分けられ、次のように分類されます。

肺がんは、自覚症状が少なく、あっても風邪と似たような症状であるために、気づきにくいがんです。また、一度検診を受けて「異常なし」と判定されたとしても、細胞は常に変化しています。毎年欠かさず検診を受けることが早期発見のポイントです。

肺がんの最大の原因は、喫煙です。肺がん死亡の危険度も、たばこを吸わない人の約4〜5倍といわれており、喫煙量が1日20本以上だと約10倍、喫煙開始年齢が早いとさらに増加します。肺がんを予防するには、何よりも禁煙です。

予防と早期発見

がんの部位別死亡率(人口10万対)



平成22年度総合健診日程

期日

(離島地区)
6月に開催(受付終了)

(市街地区)

7月16日(金)〜18日(日)
1月22日(土)〜23日(日)

健診項目

胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診・特定健診

対象者

- がん検診は40歳以上の方
- 特定健診は20歳〜74歳の羽幌町国保加入者、75歳以上の方(または長寿医療制度保険加入者)など

詳しくは実施前に各家庭に配られるチラシで確認するか、すこやか健康センターへお問い合わせください。